



小鯖小学校だより

令和2年 11月 2日
11月号 山口市立小鯖小学校

【学校教育目標】 確かな学力と豊かな心を持ち、たくましく生き抜く小鯖っ子の育成

【めざす子ども像】 ㊦：思いやりのある子 ㊧：さわやか元気な子 ㊨：ばっちり学ぶ子

コロナ禍に思うこと ～常に自問自答する～

校長 高田 修司



コロナウイルス感染者が出たら…、世間や地域社会が震撼して学校は休校になり、どこの誰でどこに立ち寄った（らしい？）とまるで犯人探しのよう詮索する…といった憂慮すべき状況は徐々に収まってきました。

小鯖小学校でも、子どもたちにとって大切な活動や行事を少しずつ実践し始めています。ただ、あいかわらず世間では、原因究明・再発防止と銘打った声高な責任追及や落ち度探し、感染者等を差別・誹謗中傷する行為（行為者本人に悪意がないケースも含めて）が現存しているのも事実です。

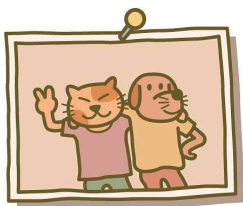
今までの人生で一点の曇りもミスもないという人はおそらくいないのに、一旦何かが起これば「にわか善人」となり、しかも「匿名」という立ち位置で、「何でそうしたのか。」「〇〇したことがよくない。」「もっと個人情報公表すべきだ。」など、後出しで声高に責める人も未だ多く存在します。



原因究明も責任追及も必要かつ大切な作業ですが、多くのケースで「叩いてやろう」という意識が内包されていることに大きな危機感を感じています。

誰の責任でもない、明らかな落ち度も見られないようなケースにすら、犯人捜しや落ち度探しを行うことは、まるで魔女裁判に等しいように映ります。

「叩く行為」を見せられた多くの人は、あんなふうに「叩かれたくない」と感じて自身の感染や行動を隠し、結果として望まない状況づくりに加担してしまうのです。



コロナ禍においては、一人ひとりがそれぞれの場面で「自分自身の人間性が試されているのかも？」と常に自問自答をすべきです。

そして…、感染や濃厚接触等が自分の身近に起きた時にこそ、おそらくその鍛えてきた人間性が最大限試されるはずです。

「慌てない、必要以上に恐れない。」「人物特定につながる詮索やプライバシーの侵害をしない。」「ウワサをたてない、信じない。」「普段の感染予防対策を粛々とする。」「

これが私たちがとるべき正しい行動であり、万一の際には小鯖小学校でもスタンダードとして着実に励行していきます。

「〇〇（例えば「詮索」）したいからする」のではなく、「〇〇したい（気になる）けどしない（我慢する）」ことの方が人としてはるかに尊い行為であり、人間力向上につながる行動様式である、と私たちは考えています。

それは今までも、そしてこれからも、小鯖小学校で大切にしていきたい教育の一つです。